

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

日本のものづくりは解体の危機（その1、構想力の欠如が製造業を没落させた）

寺島 実郎（日本総合研究所会長）

- 日本の製造業が没落した理由を端的に言うと、構想力とビジョンを持った人材がいなくなった。東芝の今の状況がそれを象徴している。日本のものづくりの誇りのような会社がマネーゲームによる解体の危機に瀕している。経営のエネルギーの大半が従業員でも顧客でもなく、株主である投資ファンドへの対策に振り向けられ、消耗させられている。
- これは、いわばMBAシンドロームの弊害でもある。1980年代以降、日本の大企業は優秀な若手を米国の大学院に留学させたが、そこでは企業価値をどうやって最大化するかを習う。そこそこのスキルを身に付けて帰ってくると、「自分価値の最大化」に気がつく。製造業の会社の若手は年収はよくて1000万円強。そこに「外資やコンサルに転ずれば、30代で数千万円」というような誘いがかかる。これで勇んで外資系金融やコンサルティング企業に転じた人は山ほどいる。
- その人たちが日本の産業界を支える柱となったが、コンサルとして日本企業にアドバイスしたのは選択と集中だ。事業部制にして資産を切り売りし、M&Aをして儲かる体質にしよう、と。その結果日本企業のよさである、人材の総合性や会社に対するロイヤルティなどが崩れ落ちていった。ここ10年ほど構想力とビジョンを持った経済官僚も見なくなってしまった。

（参考：「週刊東洋経済」2022年3月26日号）

ワンポイント経営アドバイス

大企業の方が停滞している

深尾 京司（JETRO経済研究所長

・一橋大学経済研究所特任教授）

- 元金融アナリストのデービッド・アトキンソン氏は「中小企業不要論」を主張していますが、日本の民間部門の労働者の約3分の2は従業員1000人未満の企業で働いています。近年の実証研究に基づけば、中小企業間では新陳代謝も活発で、再生の芽はむしろ中小企業にある。大企業の方が、生産性の上昇が停滞しています。
- 日本企業の研究開発は大企業中心といわれてきましたが、変わってきたのかもしれない。大企業こそもっと頑張る必要があると思います。社会は確実に変わっています。変化に目を凝らし、大きなビジョンを持ち、それに基づく現実のデータを地道に探し続けたいものです。

（参考：「日経ビジネス」：2022年3月21日号）

経営者のための危機管理

「ソニー下請け化」批判を恐れず提携（ホンダ）

- ホンダとソニーグループが提携した。異業種タッグの誕生にモビリティ業界は沸き立っているが、両者の損得を見積もるとソニーに軍配を上げる見方が大勢だ。ホンダ社内からは「ホンダが車体製造を担当して、ソニーがモビリティサービスのプラットフォームで稼ぐ。既存の製造分野の食いぶちが細っている時代に、新領域のおいしいところは、ソニーが持っていく。ホンダがソニーの下請け製造を担っているように映る」という声が漏れた。
- ここ20年は大遇なく過ごしたホンダと、09年3月に営業赤字2278億円に転落し経営危機を味わったソニー。時価総額ではホンダ5.5兆円、ソニー14.1兆円と株式市場においては、立場は大きく逆転した。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2022年3月19日号）

古典に学ぶ

自己を腐敗する

（解説）その極、道義の観念も打忘れて、いわゆる目的のためには、手段を^{えら}択ばぬというようにもなる。すなわち同僚を誤り、或いは大いに自己を腐敗する。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）